

## What are special needs? Doesn't every child need some?

### すべての子どものための特別支援

外山節子 (Setsuko Toyama) email: setsuko@seagreen.ocn.ne.jp  
Keiwa College, guest professor 敬和学園大学客員教授  
NPO: PEN, executive board member PENの会理事

Teaching English in special needs classes for the past decade has been a series of great learning experiences. These experiences have reinforced for me the importance of understanding the learning channel preferences of children, providing as much support as possible for every child's specific needs, and offering hands-on experiences. This can also be applied to lesson-planning for mainstream classes, where children can have various kinds of learning difficulties. I'd like to share with you some classroom-tested activities.



V: 29% of learning is visual, through pictures and images.

学習の29%は、絵やイメージを通した視覚でおこなわれる。



A: 34% of learning is auditory, through sounds and words.

学習の34%は、音や言葉を通した聴覚でおこなわれる。



K: 37% of learning is haptic or kinesthetic, through moving, touching and doing.

学習の37%は動く、触る、おこなうという行動を通して、運動感覚でおこなわれる。

### 【読んでおきたい本：Recommended Reading】

- 『ダメな英語活動・よい英語活動』 渋谷徹著 明治図書
- 『歌とリズムを楽しむ英語絵本セット』  
外山節子監修・著、砂田裕美子、本間アユ子共著 コスモピア
- 『ストーリーを歌で楽しむ英語絵本セット』  
外山節子監修・著、砂田裕美子、本間アユ子共著 コスモピア
- 『Multiple Intelligences in the Classroom 3rd ed.』  
Thomas Armstrong. 2009 ASCD
- 『脳科学を活かした授業をつくる』 本田恵子著 みくに出版
- 『Creating Chants and Songs』 Carolyn Graham. Oxford University Press
- 『Magic Time Levels 1 & 2』 Vilina & Kampa. Oxford University Press
- 『English Time Levels 1 ~ 6』 Rivers & Toyama. Oxford University Press
- 『「教えない」英語教育』 市川力著 中公新書ラクレ
- 『新しい学力』 齋藤孝著 岩波新書

# 特別支援校・学級の子急増 九州10年でほぼ倍 障害に偏見薄らぐ

2016年11月26日 03時05分

県	2006年	2016年	増加率(倍)
福岡	7424	14734	1.98
佐賀	1446	3176	2.20
長崎	2035	3377	1.66
熊本	2739	6226	2.27
大分	1609	3010	1.87
宮崎	1905	3382	1.78
鹿児島	2883	5446	1.89
九州7県	20041	39351	1.96
全国	204730	347519	1.70

特別支援学校・学級（公立）の児童生徒数

[写真を見る](#)



特別支援学校・学級に通う子どもが全国で急増し、九州7県でもここ10年で1.7～2.3倍に増え、2016年には軒並み過去最多に上ったことが分かった。知的障害や発達障害の子どもの増加が目立ち、主にこうした障害の認知が広がり社会的な偏見が薄らいだことで、地域の学校ではなく支援校・学級を選ぶ家庭が増えたとみられる。各県教育委員会は支援校の増設など対応を急いでいる。

文部科学省の学校基本調査（5月1日時点）や各県教委によると、06年と16年を比較して支援校・学級に通う児童生徒数の伸びが最も大きかったのは熊本の2.27倍。次いで佐賀2.20倍、福岡が1.98倍だった。16年の人数は最多の福岡が1万4734人、熊本6226人、鹿児島5446人と続き、いずれも過去最高だった（佐賀はデータの残る06年以降）。

福岡は約7割が知的障害の子どもで、ここ10年で約4500人増えた。県教委は「支援校は遠方にあり、これまでは通学の負担もあって地域の学校に通わせる家庭が多かった」と指摘。「偏見が薄らぎ、個別指導に近い専門的な教育が受けられる支援校に切り替え始めた」と分析する。

佐賀では、自閉症・情緒障害の子どもが10年前の約8.5倍の約1100人に急増。「自閉症など、知的障害を伴わない発達障害の認知が広がった」（県教委）とみられる。

熊本県教委はここ10年で支援校を1校新設し、既存の6校に高等部などを増設。支援学級を計623学級増やした。市立も含め17、19年度に、高等部のみの支援校を新たに2校開設するという。福岡県教委は、支援校に通う知的障害の子どもが今後も増え続け、10年後に1.3倍に膨らむと試算しており、今後3校を新設する方針だ。

文科省によると16年、支援校・学級に通う子どもは全国でも34万7519人で過去最多だった。

=2016/11/26付 西日本新聞朝刊=